

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 リハビリテーション学科

教授 山本 泰宏

1. 教育の責任

私は大学あるいは学部委員会で人権問題対策委員会委員長。教務委員会委員長を務め、学生及び教職員に対して高等教育機関として健全な教育環境を提供する業務を行っている。

また担当している1年生前期の人間学と現代医療史は総合基礎科目に分類され、いわゆる教養科目である。この科目ではまず、中等教育と高等教育の違いを理解、体験することを主眼として、勉強とは暗記することではないこと、多様なものの見方と多様な考え方があることを学生が理解するように取り組んでいる。

専門基礎科目である整形外科とリハビリテーション医学、そして専門科目のスポーツ医学では臨床医学と基礎医学の関連、リハビリテーションの思想を教育し、学生が将来実務家として活躍するための基礎的知識と能力の修得を目指している。

2021 年度

科目名	時期		受講者
人間学	1 年前期	選択	82 名
現代医療史	1 年前期	選択	44 名
整形外科	2 年前期	必修	150 名
リハビリテーション医学	2 年後期	必修	135 名
スポーツ医科学	3 年後期	選択	1 名
疾病治療論Ⅱ	2 年前期	必修	69 名

2022 年度

科目名	時期		受講者
人間学	1 年前期	選択	67 名
現代医療史	1 年前期	選択	14 名
整形外科	2 年前期	必修	99 名
リハビリテーション医学	2 年後期	必修	90 名
スポーツ医学	3 年後期	選択	4 名
疾病治療論Ⅱ	2 年前期	必修	49 名
精神医学Ⅱ	2 年前期	必修	1 名

・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 健康科学大学人権問題対策委員会委員長
- 2) 健康科学大学健康科学部教務委員長

- 3) 健康科学大学学生募集委員
- 4) 日本股関節学会評議員
- 5) 日本スポーツ整形外科学会評議員
- 6) 日本膝関節学会評議員
- 7) 日本スポーツリハビリテーション学会評議員
- 8) Wリーグ 山梨クィーンビーズ チームドクター

1)、2) および 3) は学内活動である。1) の活動については学生が健全な人間関係の中で高等教育を受けることができるように、教員－学生間および学生－学生間の人間関係に生じる諸問題の解決に取り組んでいる。2) の活動では、本学健康科学部の教育が高等教育機関として適切に運営されるように教育システムに関する審議、関係部署との連絡調整を行っている。

4) から 5) は学外活動である。4) から 7) の活動は大学教員の社会的責務として、その専門分野における日本の学術レベルの進歩に貢献している。そして、そこで得た最新の知見は整形外科学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、疾病治療論Ⅱに還元されている。

7) は社会貢献であると共に、トップアスリートの障害あるいは外傷の予防・治療を行うことにより、その成果を整形外科学、リハビリテーション医学、スポーツ医学の講義に還元している。また、将来スポーツ分野での活動を希望している学生にその実際を伝えている。

2. 教育の理念・目的

12 世紀に大学が誕生して以来、大学の目的は「いかにによりよく生きるか」を探求する場であった。この思想は現代にも受け継がれるべきであるが、それは現代にマッチした内容で受け継がれるべきである。

古典的大学教育の思想として、人間の行動は理論的思考と感情のバランスで決まること、そのバランスをより良い方向に導くものは理性と倫理観であることを学生は学ぶべきと考えている。

それに加え、現代社会は情報にあふれ、我々は玉石混合の情報に囲まれている。このような環境で、情報の取得スキル、取得した情報の真偽を判断する能力は現代社会を生きるものとして必須の能力であるとする。その為には古典的教育に加え、数理・データサイエンス・人工知能（AI）に関するリテラシーも必要と考える。

このような考えで育成する人材は、社会をより鮮明に理解し、その変化を予測し、自分の頭で考え自分で行動する自立した社会人である。これは、本学の建学の精神である「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つの教育目標のうち、「豊

かな人間力」と「開かれた共創力」を備えた人材である。

一方、高度に科学が進んだ現代において、大学で「高度な専門的知識」を学ぶことは不可能であり、それは今や大学院の使命となっている。学部教育においては「高度な専門的知識の基礎」をしっかりと学ぶべきである。したがって、専門科目については教科書レベルの修得を学生の修得目標の標準と考える。

3. 教育の方法

新型コロナウイルス感染症の流行により、私が担当する授業のほとんどが Microsoft Teams を使用した同時双方向型オンライン授業となった。この形式に慣れるのに時間がかかったが、2022 年度からは様々な工夫を行った。

- ・古典的講義

2 年生後期のリハビリテーション医学は、具体的な技術ではなく、リハビリテーションの思想、学問体系、そして現代社会における位置づけを伝えた。

- ・問題解決型授業

1 年生前期の人間学では、4 コマ担当した。特に人類が直立二足歩行を獲得する過程については、高校のようにわかっている事実をまとめた知識を教えることはせず、化石の発見順序にしたがって講義を進め、それぞれの化石から何がわかるのか学生と議論した。化石の発見が増えることによって徐々に人類が直立二足歩行を獲得する過程が明らかになったことを学生に体験させた。

現代医療史では、医学的進歩や発見の過程に人間の努力、挫折、葛藤、争いがあったことを開設し、最後に学生が「そこから何を学ぶのか」を問う授業を行った。

- ・現場に即した実践的授業

2 年生前期の整形外科学では、疾病の成り立ちを 1 年生で学習した解剖学、生理学、病理学と関連付けて講義を行い、基礎医学の重要性を伝えた。また、講義中に使用した動画、画像は全て自分が診療現場で撮影したものを使用して現場の雰囲気を学生に伝えた。

- ・Teams を活用した授業の工夫

整形外科学では講義前に予習課題および講義スライドを示して予習を行いやすくする工夫を行った。

その他の科目では、授業中に Poll 機能を利用してアンケートを行ったり、ホワイトボード機能を利用して、その場で板書したりすることにより学生の理解を深める工夫を行った。

授業時間以外にはチャット機能を利用して学生の質問に答えた。講義内容を録画しているため、復習として録画を利用した学生が、新たに生じた疑問をチャットで質問してく

ることが多かった。

4. 教育の成果・評価

- ・人間学

オムニバス形式であるため自分の担当部分の評価は不明だが、おおむね目的は達成できていると思われた。

- ・現代医療史

目標は達成できたと考えている。

- ・整形外科学

多くの学生に対してはほぼ目標は達成できていると考えているが、一部の学生からは「むずかしい」、「授業の進行が速い」と声がある。限られた時間の中で必要なことをすべて講義しなければならない現状から、解決策を提案することは困難と思われる。

- ・リハビリテーション医学

リハビリテーションの思想や社会との関連を学ぶ授業であり、予想通り「何を覚えなければならないのかわからない」という声が多かった。中等教育の「わかっていることを覚える」から「どうしてそうなった?」、「何が問題か?」、「どうしたらいいのか?」を考える高等教育のレベルに2年生後期でも到達していない学生が多くいる現実をみとめる必要がある。

5. 今後の目標

短期目標：大学教育の本質についての教育

4. 教育の成果・評価で述べたように、2年生後期になっても中等教育の枠組みから卒業できていない学生が多数いる現実が明らかである。この問題の解決には1年生で徹底的に高等教育を体験させ、「高校とは違うな」と実感させることが重要である。1年生前期科目の人間学と現代医療史が選択科目でありすべての学生に中等教育と高等教育の違いを体感させることは困難だが、この違いを理解した学生を一人でも増やすことにより、高等教育にふさわしい学年の雰囲気を作っていきたい。

長期目標：社会の変化に柔軟に対応できる卒業生の輩出

グローバル化を迎えた現代社会では地球上で様々な紛争、分断が存在している。紛争の根底には双方が自分の価値観に固執し、相手の価値観を認めないことにある。また、分断は金融あるいは IT を活用して富を得た人間が、他者への共感を欠いたことが原因と考えている。そのため、今、様々な世界あるいは国内の社会問題を解決するために必要な人材は多様な価値観に共感することができ、理論的思考力、さらには健全な倫理観を備えた人材であると考ええる。

今後 A I の進化により社会の在り方が変化してくることが危惧されているが、このような人材は社会の変化に関係なく必要とされる。本学は医療、福祉の専門職を養成する大学であるが、専門的スキルの修得にこだわると「それしかできない人」を養成してしまいます危険がある。しかし、そのような人材は社会の変化に対応することは困難である。教養教育を重視し、社会の変化に柔軟に対応できる、多様な価値観に共感することができ、理論的思考力、さらには健全な倫理観を備えた人材を輩出することは本学の社会的責務であり、また本学の存在価値となると信じる。したがって、今後は担当するあらゆる授業の骨格に、多様な価値観への共感、理論的思考力、そして健全な倫理観の重要性を据えた、社会の変化に柔軟に対応できる卒業生を輩出することを目指す。